

「孝情と親孝行」

皆さん、こんにちは。

今日は、「孝情と親孝行」という題目で、説教を致します。はじめにみ言を訓読します。

先生は初めから何の個人的願望も、青年のもつ青空のごとき夢も希望も、もっていなかったかという、そうではなく当然、大志を、夢を抱きながら、それらをすべて自ら捨てて、いつの日かこういうふうに、という希望の扉のすべてを、自らの手で閉じて、人生の最も悲惨なる道を選んだのです。ただ悲しい神の友になりたかったからです。

(1977.5.1)

孝情の意味

今日は、真の父母様が教えてくださった「孝情」について学んでいきたいと思います。孝情という言葉は、真のお母様が真のお父様の聖和後に私たちに教えてくださったみ言です。

今では「孝情〇〇セミナー」や「孝情〇〇大会」、そして「孝情天宙祝福式」など、様々な場面で孝情のみ言が使われるようになりました。しかし、お母様が教えてくださるまでは、孝情という言葉は世の中に存在しませんでした。この孝情について、改めて考えてみたいと思います。

孝情とは「親孝行の心情」と言い表すことができます。しかし、それだけの意味であるならば、お母様もあえて孝情という新しい言葉が使われる理由はなかったでしょう。そこには特別な意味があるのです。

今、真のお母様に近く侍っておられる文妍娥様が、孝情について次のように教えてくださいました。

「孝」は、親の前に親孝行することですね。わかりますね。では、親とは誰でしょうか？ 天の父母様と真の父母様ですね。そして、いつも天の父母様と一つになられているのが、真の父母様です。(中略) 真の父母様は、毎日、天の父母様が何を願われているのか、真の父母である私がどのように行動したら、天の父母様が喜ばれるのか、それを感じながら悩まながら過ごしておられます。それが親孝行ですね。(中略)

続いて「孝情」の「情」についてです。真のお母様が、「情」とは、天と因縁を結ぶことだとおっしゃいました。天との因縁とは、どんな因縁でしょうか？ 親子の関係ですね。しかし、その関係を正しく作りあげること、そして永遠に持続し続けること、それは簡単な

事ではないのです。

（東京成和学生合同礼拝（2018.1.7）での文妍娥様説教）

孝情の孝は、天の父母様、真の父母様への親孝行であり、孝情の情は、天の父母様、真の父母様と永遠の因縁を結ぶことだと、妍娥様は説明してくださいました。

つまり孝情とは、天の父母様、真の父母様と永遠に変わらない親孝行を捧げること、これが孝情なのだということです。ある時は天の父母様、真の父母様のために頑張ろうとするけれども、ある時はそういう気持ちが弱くなる、このような一時的・変動的な親孝行は孝情ではないということです。

皆さんも、親に対して何かお手伝いしたり喜ばせたいと思うことがあると思います。その反面、親に対して逆に要求する思いが湧いたり、「ムカつく」「ウザい」など思ってしまう時もあるかもしれません。本当に親を大切に思うのであれば、子女として変わらない心情を持つことが大切です。親の変わらない愛を感じ、感謝を返していける変わらない子女の姿を目指しましょう。

孝情の基準

それでは、天の父母様、真の父母様と永遠に変わらない親孝行の関係である孝情の基準を持つ方がどなたなのかというと、まさにそれが真の父母様です。

お父様、お母様は、神様の下の人類一家族という神様の夢を、生涯をかけて変わらず求め続けてこられました。その生涯を、真の父母様は自ら「一片丹心の生涯」と表現されています。

つまり、孝情とは、真の父母様が天の父母様に捧げた孝の道そのものであり、真の父母様の孝情が、本来の孝情の基準であるということが分かります。

孝情の相続

なぜ、お母様がお父様の聖和後に、孝情のみ言をくださったのでしょうか。それは今、私たちが真の父母様の伝統を相続しなければならない時代にあるからだと思います。

お父様は霊界に行かれ、直接お会いすることができなくなりました。それで、お父様のみ言を訓読し、お父様の映像を見て、お父様がどのようなことを考えて生きておられたのかを私たちは知り、学びます。

そして、今、私たちがお会いすることができる真の父母様は、真のお母様です。しかし、更にこの先、何十年か先、真のお母様にも直接お会いすることができない時代がやってきます。

その時、きっと、お父様とお母様のみ言を訓読し、映像を見て、真の父母様の生き方を学び実践していくようになると思います。私たちが真の父母様を正しく後代に伝えていかなければならないのです。

真の父母様がどのような方だったかを伝える時、その中心になるのが、孝情だと思います。真の父母様は、何よりも孝情の方だったと。神様とその夢のために生き抜かれた方であつたと。

真のお母様は、私たちに同じように神様を愛してくれる人になって欲しいという願いを持って、孝情のみ言を教えてくださいましたのだと思います。

真のお父様の孝情

真のお父様の生涯を振り返ってみれば、お父様の何歳の時を見ても、その生き方は孝情でした。普通で考えれば、絶対に難しいという困難な状況にあっても、「神様、私は大丈夫です」と、神様を安心させ慰労する歩みをしていかれました。

お父様はご自身の歩みについて次のように語っていらっしゃいます。

何も分からないまま、父の前に訴えたその時に、静かに命じられたあなたの声が鮮やかに思い出されます。鼻歌を歌いながら幸福を感じるその場よりも、涙と血を流す場で唇をかみつ、お父様の前に誓ったその時間が懐かしく思われます。(中略)

み旨の道を知った時に、そのあわれで難しかった事情を前にして、身もだえし、あえいだその時を忘れることができません。統一家の伝統的背後には、多くの涙の交差路が絡み合っていることを知っています。今この場に帰って考えると、それが避けることのできな

かった^{かいせい}回生の一念になっています。日帝時代を経て、北朝鮮の地をたどり、韓国の地をたどり、アメリカの地をたどり、世界を行き来しました。天が行く道はそうように迫害が伴った事実を、その由来を知ってみると、天の前に感謝する道しかありません。そのような生涯の道を歩んでくるようにされたことを、再度感謝いたします。

(『真の御父母様の生涯路程Ⅰ』第三節 神様の召命とみ旨の道出発 三. 召命と内的な準備 (一九三五・四～一九四五・八))

真のお母様の孝情

そして、真のお母様は、真のお父様の夢を引き継がれて、そのために今も投入しておられます。

2019年8月17日、真のお父様の聖和7周年の記念式典がおこなわれました。そこで、地上の真のお母様から天上の真のお父様に捧げる書信が発表されました。お母様がお父様にお捧げする心情が込められた手紙です。

その一部を紹介します。

それから、「オンマ、ありがとう！ オンマ、頼んだよ！」。お父様は息苦しそうにされながらも、「本当にすまない。本当にありがとう」と、続けて話されました。私はお父様の

手をさらに固く握りしめ、慰労の言葉と眼差しで安心させてさしあげました。「何も心配しないでください」。お父様はそのようにして、天の父母様の懷に抱かれました。天聖山の本郷苑で眠りに就かれました。

(中略)

東から西、南から北に、私は世界を抱くため、休む間もなく巡回しました。口の中がただれ、足がむくんで立っていることさえできない困難がありましたが、私は休むことができませんでした。お父様との約束、み旨がどれほど大変でも、私の代で終わらせるという約束を守るためでした。「必ずや私が成してさしあげる。そのために、私は変わることなく歩む」と、数え切れないほど自らに言い聞かせながら、生きてきました。胸が締めつけられるほどあなたが恋しいときは、月を友として言葉を交わし、お父様のご聖体を前にして誓った約束、「私の生涯を終える日までに、天一国をこの地に定着させる」という決意を繰り返し固めながら、生きてきました。

そのように生きてきたら、お父様、もう聖和7周年になりました。

(中略)

「2020年までに7カ国を必ず復帰する」という私の決意、「すべての祝福家庭を神氏族メシヤとして天^{てん}寶苑^{ほうえん}に入籍させる」という私の決意は、お父様のための、私の贈り物です。

この贈り物が、そして天の父母様に対するあなたの孝情の生涯が、全世界に希望の光となることをお祈りします。

お父様、愛しています！お父様、愛しています！

(地上の真のお母様が天上の真のお父様に捧げる書信 天一国7年天曆7月17日(2019年陽曆8月17日))

真の父母様と共に生きる私たち

このように、神様の夢を必ず実現させるために歩んでおられる真の父母様と共に生きる私たちです。

すぐに国や世界を神様の下に…、という大きな歩みはできないかもしれません。しかし、毎日の生活の中で、神様のことを思ってお祈りすること、真の父母様のご健康をお祈りすること、そして親や隣人のために、何か良い言葉や行動を起こしてあげること、そこから孝情の一步が始まります。

冒頭のお父様のみ言には、続きがあります。

あなた方もまた、ある意味では同様に苦難を負って歩んでいるわけですが、それは過去において先生が既に通過してきた道を引き継いでいるだけです。そして私たちがこのように自ら進んで苦難を引き継ぎ、それを負っていくのは、ただただ神を知ったがゆえであります。

(1977.5.1)

人類を、神様を中心とする一つの家族にする、という途方もない夢を、人類に対する父母の心情を持って追いつけて生きて来られた真の父母様です。

私たちが、神様のために、真の父母様のために、と歩んでいく時にぶつかる困難は、実は私だけが孤独な立場でぶつかっている壁ではなく、既に真の父母様が通過してこられた道です。

そこには必ず、真の父母様の心情の足跡があるはずです。真の父母様の心情世界を感じながら、真の父母様と共に一步一步前進していきましょう。

今日は、「孝情と親孝行」という題目で説教を致しました。以上で説教を終わります。ありがとうございました。